

潮陵高校サイエンスウィーク

放課後の時間を利用して、地域医療の問題や最新の科学について知る機会をつくっています。12月は4回の講演会やセミナーを開催しました。

3日(木)は、旭川医科大学の蒔田芳男教授によるワークショップです。蒔田先生の指導の下、遺伝子診断をテーマに遺伝子の基礎概念から遺伝子医療をめぐる幅広い問題までグループワークを通して学びました。「自分にはない考えを知ることができて視野を広げられた」(1年女子)、「ひとつのものごとに対して今回ほどじっくり考えたことはなかった」(1年男子)など、グループディスカッションによるアクティブなラーニングは、貴重な経験になりました。



全国には数多くの大学があります。しかし、情報は北海道内の大学に偏りがちです。4日(金)は、新潟大学の佐藤喜一准教授から、本州の総合大学の紹介や学生寮、奨学金の情報から現役学生の就活の話まで、大学生活全般についてお話し頂きました。「大学をたくさん調べてよい大学を見つけたい」(1年男子)、「自分に一番合った大学を探したい」(2年女子)、学生生活への夢が広がりました。

10日(木)は、「遺伝子操作で新しい生命体を創る」と題して、小笠原慎治北海道大学創成研究機構特任助教による講演でした。先生の研究分野は光遺伝学で、遺伝子工学とタンパク質工学を駆使し光で生物を操れるようにする技術を開発しています。実験を開発するための実際の映像やアニメーションに、参加した多くの生徒が「驚きました」。最先端の科学研究を目の当たりにして、講演後の質問も続きました。

14日(月)は、北海道薬科大学の古田精一教授による「地域医療と薬剤師の役割」と題する講演でした。講演者の古田先生は、肺炎球菌ワクチンの公費助成を実現し、地域医療ブームの先駆けとなった瀬棚町立瀬棚診療所(「荻野吟子病院」)の薬剤師で、現在は大学で地域医療に貢献する薬剤師の養成にあたるなど活躍中です。チーム医療、地域包括ケア、調剤ロボットの導入といった薬剤師をめぐる様々な状況についての話からはじまり、実際の患者とのふれあいや東日本大震災での活動など、「もっていたイメージががらっと変わった」(1年男子)、「将来看護師になりたい私にとって・・・周りの医療にも目を向けたい」など、未来の薬剤師がもつ大きな可能性を感じました。

